

1991年8月19日

日本共産党中央委員会御中

神奈川県川崎南部地区委員会  
東電川崎火力支部

## 東電闘争に対する中央委員会の 指導についての意見

私は昨年10月「東電闘争」に対する中央委員会の指導について、意見を提出しましたが、その後指導の改善がなされていないと判断し、再度意見を提出します。

過日8月3日東電闘争支援共闘中央連絡会議の第2回幹事会が開催されました。討議の全ての報告ではありませんが、そのあらままと、問題点を以下に述べます。

本年5月17日に結成された東電闘争支援共闘中央連絡会議の第1回幹事会以降の、経過報告の承認と、秋闘争の方針が決定されました。その討議の過程の中で東京の「東電闘争支援共闘会議」の意見として、現在の中央連絡会議では解決の組織とはならないので、中央支援共闘会議を作るべきだということでした。

東京のこの様な意見は、昨年12月以降出されていました。

しかし「東電闘争の中央の支援組織」を作ることにについては、正式に本年2月東京の支援共闘事務局長が選出された以降、1都5県の支援共闘事務局長が会議を開き、討議して作られたのが、現在の支援共闘中央連絡会議です。ここに至るには、1年の論議の経過があります。自らも賛成した中央連絡会議であるにも拘らず、結成後2カ月余りで別の組織を作らなければ駄目だと言うことは、東京以外の各県の支援共闘会議の人も全く理解できませんでした。

しかし各県とも東京がその意見を持つことの自由は認めています。問題は、その組織化（中央支援共闘会議作り）を実行に移していることであります。

8月3日の第2回幹事会の討議では、各県から批判されても東京の人達は最後までその実行を取りやめると自らは発言しませんでした。最後に議長が、東京が組織化を行うということは、2つの組織を作ることになるから実行に移さないよう、東京の代表に発言を求め、やっと（しぶしぶ）中央連絡会議でやって行くという発言をし、まとまりました。しかし固い団結とはなりませんでした。

問題点は、東京の代表が理にかなわないことを、当然の事のように発言することです。意見を持つのは自由であるが、現組織を否定する行動に移っていることに、反省の一片もありません。

日本共産党員ならば、組織のイロハのイの論理であります。東京のこの様な状況では、今後団結した行動は困難が予想されます。

東電闘争が15年の長きになっており、1刻も早い解決のため東電闘争の運動と解決に責任を持つ組織として「中央連絡会議」が、全体の英知を結集して作られました。そして現在「中央連絡会議」の基に団結し、今年中の解決に向かって奮闘している現状から考えれば、非常に重大な状況です。

問題は非常にはっきりしていると思います。意見は色々有っても一致点で行動することです。組織を分裂させるような行動は、絶対有ってはならないことです。取り合えずこの点1点だけでも中央委員会の適切なる指導を早急をお願いします。

以上